

NPO法人(九州地方)

※平成22年度信書便年報(総務省発刊)「信書便事業者の声」引用

九州地方のNPO法人Cは、知的障がい者の方が楽しく働ける作業所としてクッキー等の菓子の製造・販売を行っています。平成18年度に信書便事業に参入し、伊万里市の公文書等の巡回集配サービスを提供しています。また、本年6月には、情報通信の発展に貢献した団体として、平成22年度「情報通信月間」総務大臣表彰を受賞されています。

以下は、信書便事業のご担当者からお聞きしたお話です。

Q 信書便サービスの提供を続けている中で、最近特に、ご苦労されている点や工夫されている点を教えてください。

A 現在、水曜と木曜の週2回、信書便を扱わせていただいています。通所者が休んでも契約は履行しなければならぬため、代替要員の確保に努めています。区長宅を巡回する木曜日のコースの場合、1台の車が午前中に30件以上を回ることになります。このため、配送員に巡回ルートをしっかりと覚えてもらう必要があります。年度当初にコースの変更があった場合、1台の車に予備の要員も同乗して配達先をしっかりと覚えてもらい、急きょ当番の人が休んでも予備の人で十分対応できるようにしています。

また、比較的重度の障害をもつ通所者にも当初よりもできるだけ多くが参加してもらえるように配慮しています。

Q 信書便サービスを数年続けてこられた経験から、当初予想されたことよりも、良かった点・残念だった点があれば教えてください。

A 残念だった点は思い当たりません。むしろ私たちの取組は、国の障がい者政策に合致しているように思います。信書便の仕事は利用者(信書便事業に携わる通所者のこと)に大変人気があり、配達先から声をかけてもらえることが大変嬉しいようです。結果として、利用者も挨拶がきちんとできるようになってきています。

また、信書便の配送用車両に同乗して作業をしているため、車に乗り込む行動などが、配送業務に従事する前と比較して機敏になってきています。さらに、利用者に支払う工賃も、全国平均より随分多くなりました。

Q 利用者である伊万里市からの意見や反応をどのように受け止めていますか。

A いつも良くしていただき、楽しく仕事をさせていただいています。

Q 6月に情報通信月間大臣表彰を受賞され、世間の反応は何か変わりましたか。

A 最近も市の広報誌に表彰関係の記事が載り、周囲でも多くの方に知っていただきました。信書便の記事で有名になることで、クッキーの販売にも相乗効果が現れています。知名度が高まってきた結果、伊万里市内では当法人の名前を知らない人は誰もいない、という状況です。信書便の配送車両が空いている時間でクッキーの移動販売に出かけていますが、訪問先で断られることはなくなりました。



社会福祉法人熊本市手をつなぐ育成会

※平成25年度信書便年報(総務省発刊)「信書便事業者の声」引用

社会福祉法人熊本市手をつなぐ育成会は、共生社会の実現をめざし、様々な活動と事業を行っています。福祉サービス事業の一つである第二ぎんなん作業所は、知的障がい者の方に楽しく働ける場を提供している事業所で、木竹工、リサイクル回収等を行っています。平成20年3月に信書便事業に参入し、同年4月から熊本市の公文書等の巡回集配サービスを行っています。

以下は、信書便事業のご担当者からお聞きしたお話です。

Q 信書便事業に参入することとした経緯を教えてください。

A 障害者自立支援法が平成19年に施行され、熊本市から当会に対し、文書配送業務を受託できないか話がありました。当会内で検討の結果、就労支援B型施設である第二ぎんなん作業所で担当することとなり、その後九州総合通信局とのやりとりや説明会への参加を通じて申請書類を作成し、平成20年3月に許可をいただき、同年4月から事業を開始しました。

Q サービスの提供に当たって苦労された点、工夫された点を教えてください。

A 信書便物の配達は、非常勤のドライバー(健常者)と知的障がい者1名でペアを組み、車3台を使って(ドライバー4名と障がい者5名でローテーションを組んでいる)行っていますが、ドライバーの方が障がい者のそれぞれの特性をつかむのがやや大変でした。自閉症の方は、一定のパターンを決めないとパニックになるので気を遣われるようです。

Q 信書の秘密の保護などについて、従業員や配送員に対する教育としては、具体的にどのような取組をされていますか。

A 信書の入ったバックの中身を開けない約束で信書便物(バック)を巡回先で授受しています。また、ドライバーが巡回先に持って行くバックをその都度指示して誤配達のないように努めています。
また、配達担当の障がい者は育成会の文字の入った黄緑色のベストを着用し、信書便を取り扱っているという意識付けを高めるようにしています。いつも良くしていただき、楽しく仕事をさせていただいています。

Q 利用者からの意見や反応をどのように受け止めていますか。

A 通行人にぶつかりそうになったことがあったので、安全に配慮して急がないようにしています。

